

ベトナム溶接研究会 第17回研究会(@ホーチミン市)

勝又 美穂子

グローバルD&I推進室 准教授

2026年1月28日～1月29日の2日間にわたり、第17回ベトナム溶接研究会をホーチミン市で開催しました。今回は研究会として初となる、2日間の開催でした。2日間共に研究会からの参加者は32名となり盛況でした。

1日目は、ホーチミン工科大学との共催による「接合科学に関する国際セミナー」を開催しました。会場はホーチミン工科大学の機械工学部ホールでした。研究会からの参加に加えて、ホーチミン工科大学の教員や学生等約20名も参加し、活発な質疑応答が行われました。発表は、当研究所より田中教授、麻教授、佐藤准教授、古免講師、山本助教、川田工業より津山氏、ホーチミン工科大学よりDr. Quoc Chi、Dr. Hai、ホーチミン教育大学よりDr. Nga、そしてハノイ工科大学よりDr. Ngocの合計10名が行い、残留応力に関するシミュレーション、プラズマアーク溶接、レーザ溶接、金属組織の変態、溶接3Dマスク、超音波付加による溶接の最適化など、多様な分野からの研究報告となりました。

ホーチミン工科大学とはこれまで具体的な研究連携等が行えていませんが、博士課程の学生も多いとのことで、今回のセミナーを機に今後色々な形での連携可能性を模索できそうです。

2日目となった1月29日には、ホーチミン市中心部から車で約1.5時間に位置するDai Dung社の工場を訪問しました。Dai Dung社は1995年に設立され、その後日本のゼネコンと共にODA案件に携わりながらその技術力を高め、今やベト

ナム国内は勿論、各国の競技場やランドマーク的建造物の建設にも従事する勢いのある企業です。Dai Dung社では、社長のDzung氏より同社の歴史や変遷、技術・経営的な強み、そして今後の展望などを含めたお話をありました。その後ベトナム溶接研究会会長の田中教授からは、研究会としての活動、产学による連携活動と今後の期待等についてお話をありました。

工場内では、自社と外国企業との合弁により開発された自動切断機や、溶接工が協働ロボットを利用しながら溶接作業を行う製造ラインなどを見せていただきました。また、各ラインには大きなモニターが設置されており、構造物の画像とガントチャートを組み合わせた、製造進捗及び技術課題が同時に確認できる最新鋭の管理体制が敷かれしていました。工場における機材や管理には膨大な投資がされており、同社が取り組む技術改善や開発への積極的な姿勢が伺えました。

工場見学後には、参加者からの質疑応答が多数あり、溶接工の確保の難しさ、工場内の安全管理に対するコメント、協働ロボット活用のメリット等について、活発な意見交換が行われました。同社の勢いはベトナムの成長そのものを肌で感じるようで、学びの多い見学会となりました。

今回の研究会も日本、ベトナム国内外から多数の参加者にご参加いただき、ネットワーキングの機会としても大変有意義な会となりました。ベトナム溶接研究会への皆様の温かいご理解とご支援に改めて感謝申し上げます。(次ページ写真)



ホーチミン工科大学セミナー集合写真



ホーチミン工科大学セミナーの様子



Dai Dung 社工場見学前の集合写真



Dzung 社長お話の様子



田中教授お話の様子



協働溶接ロボットを導入している製造ライン



Dai Dung 社にて集合写真